

## 【五戸でみて・聴いて・感じたこと】

私の父は山形で開業医をしており、東北の医療をみてみたいという考えで五戸総合病院での地域研修を選択させていただきました。

五戸総合病院で過ごした1か月間を振り返ってみると「医療」についてとても考えさせられたなというのが一番の感想です。医者の数と医学には限界があります。だからこそ、いわゆる地域連携を実践して重症患者をつくらない、疾病予防・早期発見の取り組みを実施することがとても大切になってくるのだなと五戸で研修をしてから強く感じております。具体的には内科外来や訪問診療、地域ケア会議への参加、介護事業の催しなど、大学病院では経験できない診療内容や、知ることもできなかつたろう取り組みに触れさせていただきました。患者さんひとりひとりに寄り添ってというよりは、もう少し広い視点で地域を診て、考えるということを見せていただいたように感じます。

また農家が多く、人口は減少傾向、若者が帰って来ないという地域での医療は地域特有の問題が様々あることも学びました。脱水でCr1.9になったけど収穫で休めないというおばちゃん。人口の減少とともに縮小していく診療所の話。認知症も進んで方言が強くて問診とりにくい一人暮らし90歳の脱水のおじいさん。私の研修病院ではなかなか考えにくい状況ばかりでした。

片道50分かけて透析クリニックに週3回通う生活をしている人が町内に45人もいるという話。虐待って小児だけでなく高齢者でもあるという話。老々介護が当たり前の状況。こんな地域が同じ日本にあること、私の研修病院にいたら誰も教えてくれないし、知ることも実感することはありませんでした。

五戸総合病院で経験させていただいたことは私にとってどれも大変貴重なものです。

指導医の新井田先生をはじめ、諸先生方、五戸総合病院のみなさま、不慣れで短期間しかいない研修医に手取り足取り優しく教えていただき本当にありがとうございました。

(この文章を読んでくださっている研修医の方へ)

地域研修を行う予定の研修医の方が読む機会も多いと思います追記させていただきます。

将来、大都会の大学病院に勤めようとしている方にも、田舎の地域医療に携わろうとしている方にも、大変貴重な地域研修になると思います。

本に書いてないこと、ここでしか経験できないこと、ここでしか聞けないお話もたくさんあると思います。

楽しいことも山ほどあります。五戸総合病院での研修をぜひ選択してみてください

ださい。

2018年7月五戸総合病院 内科研修医

順天堂大学医学部附属浦安病院 研修医2年目 萩原慶